



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2021年 3月12日

日本鉄道労働組合連合会

## 貨物鉄産労 第3回団体交渉

# 昇給の実施は確認！ベアについては困難！

### 貨物鉄産労は納得できない意向を示し、会社に再考を求める！

貨物鉄産労は3月11日、2021春季生活闘争の第3回団体交渉を行い、会社から現時点の考えが示された。

会社は、「今年度は、『JR貨物グループ中期経営計画 2023』のもと、コーポレート・ガバナンスと安全を基盤に、時代に即した新しいサービスによるお客様への最適なソリューションの提供を通じて、『鉄道輸送を基軸とした総合物流企業グループ』への進化を目指し、諸施策を推進してきた。また、経営基盤の強化については、新技術・新規事業へ積極的にチャレンジしたほか、社員のやりがいにつながる新人事制度の定着を図るなど、より働きやすい職場づくりを目指してきた。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大により、社会経済活動が大きく制限され、また、度重なる自然災害の中、鉄道事業においては、大幅な減収を余儀なくされた。なお、自然災害に伴う輸送障害については、社員の協力のもと代替輸送等により、収入の確保に努めてきたが、3月10日時点、1月期計画に対して取扱収入が△約15億円と厳しい状況になっている」と、今年度の取り組みと現下の経営状況について述べた上で、「様々な状況を総合的に勘案し、**昇給額表に記載している等級及び評価に応じた昇給は実施するものの、現時点、ベースアップについては実施できる状況にない**」として、昇給は実施するものの、ベースアップの実施については困難との認識を示した。

一方貨物鉄産労は、会社の厳しい経営状況に理解を示しつつも、組合員が日々、新型コロナウイルスの感染リスクと闘いながら安全・安定輸送に努めていることや、これまでに経験したことのない窮地を打破していくためには、労使が一体となって取り組んでいかなければならないこと、そのためには安心して働ける職場環境の整備が必須であることを改めて主張。「ベアゼロ回答となれば、19年間ベースアップが実施されなかった暗黒の時代にまた戻ってしまうのではないかと不安に陥ってしまい、その結果、企業の財産である人材が離職していくことになれば、会社が描く将来像は実現できない」と指摘し、会社の考えには納得できない意向を示した上で、再考を強く求めた。